

令和7年度 評価結果を踏まえた今後の改善方策

1 調査の実施方法、対象者数

本調査は Forms を使用し、オンラインアンケート形式でおこない、

【1 全くできていない 2 あまりできていない 3 ややできている 4 できている】

の4段階で回答した。実施期間は2025年12月12日から12月21日の10日間で、本校職員46名が回答した。

2 結果の概要と考察

特徴的な項目をあげ、考察する。

2.1 比較的评价が高かった項目

「②定期的、日常的な安全点検の実施」3.7

毎月の安全点検によって、修理が必要な箇所や危険な場所への職員の意識が高くなってきた。長寿命化工事期間中、学校全体に足場が組まれていたが大きなケガなく終えることができた。しかし、プレハブ校舎から、玄関、中庭、運動場へ走り抜ける生徒がいる為ぶつかる危険性がある。職員全員で、危険な行動への声かけも必要である。

今後も危険箇所や修繕箇所等を職員間で情報共有し、安全安心な生活環境づくりに努める。

また、安全安心な学校づくりに関するその他の項目も評価が高かったことから、安全に関する環境整備や職員の意識付けは大きな成果を上げており、今後も継続していきたい。

2.2 比較的评价が低かった項目

「⑩互いに思いやり、何でも相談しやすく、助け合える学校組織」3.0

「㊲教職員の勤務時間の適正化」3.0

職員の働き方に関する項目は、他の項目に比べ低めの評価に留まった。特に「⑩互いに思いやり、何でも相談しやすく、助け合える学校組織」については昨年度からマイナス0.3ポイントとなっている点は、今後の最重要課題である。職員間のコミュニケーションがもっと円滑であれば、様々な課題解決や新たな提案がよりスムーズに実行されていたと推測され、それは勤務時間の適正化にも繋がったと考えられる。

今後カウンセリングマインド研修やストレスマネジメント、業務改善などを行う際は、「職員間のコミュニケーション」と「業務の精選と効率化」を両輪として行うことで、働きやすく働きがいのある職場づくりを目指したい。

3 学校関係者評価

本校の「学校評価」について、適切な自己評価がおこなえているかどうかを、学校評議運営協議会の委員の皆様【A 適切な評価である B まずまず適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】の4段階で評価を受けた。

努力目標	評価平均
安全安心な学校	3.8
自他の命と人権が尊重された学校	3.6
自立と社会参加の実現を目指す学校	3.7
確かな成長を支援できる学校づくり	3.6
地域に開かれた、信頼感のある学校	3.5

「学校関係者からのコメント」

- ・学齢や障害特性等に対応しつつ、適切に実施がされている。実施結果から改善点を見出し、レベルアップする努力みられる。
- ・人権学習は毎年異なるテーマで企画されていて地域の方も参加できる地域公開研修会という形で開催されているのがとても素晴らしいと思った。日時がわかるチラシなどがあれば、広く共有したい。
- ・外部機関との連携やかかわりが多い事項なので難しいことも多いと思うが具体的な取組がなされていると感じる。
- ・教員の働き方改革は困難なことも多いと思うが、引き続き工夫をしていっていただきたい。
- ・先生方の負担なく、取り入れられる継続可能な活動を先生方主体で考えられる機会があるとよい。「特別」ではなく「いつもの」教育活動の中に地域が入り込めるといいと思う。
- ・すべての項目で目標、具体的取組、成果と課題、改善方策が記されていて素晴らしいが、項目が多く教員の負担が大きいのではないか。その年度の重点強化項目を選んで意識して取り組むのもいいかもしれない。

4 来年度へ向けて

本年度の学校評価では、安全安心な学校づくりに関する取組が特に高く評価され、日常的な安全点検や防災対応の意識が職員全体で定着してきたことが成果として示された。今後も危険箇所の共有や声かけを継続し、児童生徒が安心して生活できる環境づくりをさらに充実させていきたい。

一方で、「互いに思いやり相談しやすい組織づくり」や「勤務時間の適正化」など、職員の働き方に関する項目は改善の余地があることが明らかになった。職員間のコミュニケーションを円滑にすることが、業務の効率化や負担軽減にもつながると考えられるため、次年度は職員研修や業務改善の取組を、組織づくりと働き方改革の両面から進めていく必要があると考える。

また、学校関係者の方々からは、地域公開研修の情報発信や継続可能な活動の工夫など、学校を応援し協力したいという前向きな意見が多く寄せられた。次年度は、行事だけでなく普段から地域とつながる教育活動を意識し、重点項目を絞り焦点化しながら取組を積み重ねていきたい。